

あなたの建築家としての マニフェストをください



公益社団法人 日本建築家協会会長 六鹿正治

「建築は社会や環境の変化にどのように貢献できるか」について、建築家としてのあなたの考えを示してください。

とくに、気候変動や資源乱用への対応、レジリエントなコミュニティ、健康、誰一人取り残さない社会、変革へのパートナーシップなどを醸成するデザインの観点から、あなたの考えを簡潔に示してください。

みんながそれぞれの考えを「マニフェスト」として持ち寄って共有しながら、「リレー」のようにつないで、幅広い議論の輪を広げていきませんか。

そういう趣旨のお誘いがUIA (国際建築家連合) から届いた。これは2023年夏のUIA コペンハーゲン大会の事前イベントとして計画されている「国際マニフェスト・リレー」のことである。その時点での全世界の考えや実践の広がり共有して、次の思考・実践の議論につないでいくことが期待されている。世界中から同時に出すのだが、次の時代へつないでいくという思いを込めて「マニフェスト・リレー」と主催者は称している。

各国の建築家協会会長宛てのUIA 事務局長からの要請では、適切な建築家・デザイナー・都市計画家など3名を選んでこれを依頼してほしいという内容になっている。

しかしJIA会長としては、たとえば有名建築家3名を専権裁量で選んで任せてしまうのではなく、JIA全体としてこの課題を受け止めて、チームJIAでマニフェストをつくるべきなのではないかと考えた。今を生きる建築家なら誰しも考察し、表明すべきテーマだからである。

そこで、この機会に「UIA国際マニフェスト・リレー日本版」を行って、全JIAの英知を集めて共有し、JIAや日本国内での議論を喚起していきたいと考えている。皆様から応募された全提案をHPや『JIA MAGAZINE』などを使って発表する予定であり、その後のシンポジウムやイベントなどに生かしながら、議論をリレーのようにつないでいくことを期待している。

JIAからUIAへの3提案は、審査会で選ぶ代表的な提案の中から英訳などディレクションを行って作成する予定である。115か国の建築家協会から3つずつ出ると、350近い提案が揃うことになる。それらと日本版の多くの提案を合わせて見ることは、テーマに対する建築家の考え方の広がりや多様性を理解するうえで貴重な機会になるはずである。

日本版募集要項とテーマの解説は次頁以降にあるが、この取り組みで期待することを以下に記述したい。

まず、UIA コペンハーゲン大会はSDGsと建築が主題となっていることに注目したい。SDGsの17のゴールによる分類ではない設問になっているものの、状況認識としては、地球温暖化、気候変動、激甚災害、そしてパンデミックなどに見舞われる中で、経済混乱、食糧危機、体制の葛藤などを超えて、誰一人取り残されない社会や環境をつくっていく上で、建築家はどのように貢献できるかという、ほぼSDGsと建築についての視点と重なる。

一方、コロナ禍において、環境破壊のみならず格差拡大など成長を前提とした資本主義の矛盾がいつそう深まる中で、脱成長やコモンズの価値観を見直す「人新世の資本論」で斎藤幸平が展開した主張が脚光を浴びている。そこで唱えられる潤沢な脱成長経済の方針は世界を救えるだろうか。

少し前に藻谷浩介が説いた「里山資本主義」はそういう矛盾をカバーしていけるものだろうか。岸田文雄首相が唱える成長と分配のバランスを取る「新しい資本主義」や「デジタル田園都市構想」で解決の糸口

注：マニフェストとは意思表示、声明、宣言などのことであるが、ここではテーマに対する自分の考えを図などのビジュアルや文章で表現することを広く意味するものと捉えている。

が見つかり、「グリーン・リカバリー」がなされるだろうか。また世界中で取り組みが進む「スマートシティ」が新しい世界の入り口になるだろうか。ますます進む都心の再開発や都市更新はどうか。地域でのさまざまな取り組みはどうか。それらの中で建築は社会や環境の変化にどのように貢献できるだろうか。

私たちJIAの建築家たちはこの数年、SDGsやカーボンニュートラルについての理解を深め実践に生かしつつあるが、さらなる認識と取り組みの深化が必要なのではないか。10年前の大震災や原発事故、その後の復興から得た教訓や知識を生かしているだろうか。このところ日本各地で度重なる豪雨にまつわる激甚災害をどう理解し対処していくのか。

このようなテーマに対応できる何か日本らしい価値観が引き出せないか。JIAからUIAへ、日本から世界へつないでいけるような新鮮な提案はないだろうか。

この機会に、会員の皆様の提案を全て発表して共有し、次の議論と実践につなぐムーブメントを一緒につくってまいりましょう。

国際マニフェスト・リレー2023

「建築は」を、「建築家は」または「あなたは」と読み替えて見ると考えやすいかもしれません。

建築は社会や環境の変化に どのように貢献できるか？

UIAからの募集の案内

建築と持続可能な開発に関するマニフェストを募集します。世界の建築家、デザイナー、アーバンist、プランナーの皆様から、国連の持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けた建築と都市の役割と可能性について、文章または図表で構成したマニフェストを募集します。

これらのマニフェストは、2023年にデンマークのコペンハーゲンで開催される第28回UIA世界大会に向けて、議論のきっかけ、さらなる研究の基礎、展示のインスピレーションとして使用されます。内容については大会の6つのテーマを反映するものとします。

1. 気候に適応するためのデザイン
2. 資源について再考するためのデザイン
3. レジリエントなコミュニティのためのデザイン
4. 健康のためのデザイン
5. 誰一人取り残されないためのデザイン
6. 変化へのパートナーシップのためのデザイン

このテーマは、Katherine Richardson教授らによる2019年世界持続可能な開発報告書「The Future is Now - Science for Achieving Sustainable Development」の国連17SDGsの包括的なミッションに基づいています。

国際マニフェスト・リレーについて

人類と人類が住む地球は、エコシステムの崩壊、気候変動、継続的に拡大する社会的・経済的不平等、健康危機、組織的差別、安全で適切な住宅の不足など、複数の危機に直面しています。

建築と都市は、これら6つの課題に取り組むために、さまざまな専門分野にまたがり、またそれらが協力しあって活動しています。建築環境は、私たちの日常生活の状況や行動、想像される未来に基本的な影響を与えるため、建築と都市は、社会的に公正で生態学的に持続可能な開発と実施を促進するための大きな可能性を秘めています。

したがって、国連の17のSDGsから出発して、UIA世界大会2023では、建築と「持続可能性」という複雑な概念との重要な関係を探ります。「国際マニフェスト・リレー」は、UIA世界大会の開催期間中に広く配布されるほか、大会に向けての討論会や展示会、記事などにも活用されます。さらに、草の根団体や専門家、学生、社会人、政策決定者などがグローバルに活用できる無料のオンライン・リソースとして永続的に利用できます。

「国際マニフェスト・リレー」の形式は、多様な考えが同時に多数並置されるものであり、建築実務と、UIA大会科学委員会が行う研究との間で、強力で刺激的な相乗効果を生み出すでしょう。

JIA等各国協会からUIAに提出するにあたっての フォーマット&ガイドライン

日本版は、日本語でご応募ください。
(英語や日英併記でも構いません)

UIAに送付する3案は、JIAが英訳し、選定された方に確認いただくこととなります。

文章や図表で構成する。

A4用紙2枚分とする。PDF形式。使用言語は英語。

6つのテーマから1つ選択し、テーマごとに応募（異なるセクションに複数応募可）。

意図が明確であれば、現実的～空想的、シリアス～遊び心、どのような提案でもOK。

マニフェスト・リレーは1つのセットにまとめられれば多様でダイナミックかつ包括的な読み物が出来上がる。自由でオープンな提案集のためにも共通の形式の遵守が大事。

6つのテーマの解説

1 気候に適応するためのデザイン

建築環境は、より大きく、より強力な自然の生態系の中に包含されています。気候パターンの変化に伴い、特に被害を受けやすい住民を保護するためには、建築、居住地、都市の役割や、環境との関わり方も変わってくるはずです。環境の変化を緩和し、生物学的な生態系を維持増進することで、**建築環境と自然環境を平和的かつ協力的に適応させる**ことができます。

2 資源について再考するためのデザイン

地球上の資源の限界を意識するようになると、資源収奪の思想から、**再生的、循環的なデザイン思想**への転換が必要になります。ここでは、生産と消費のサイクルのすべての側面を、持続可能性を念頭に置いて再評価していきます。

3 レジリエントなコミュニティのためのデザイン

持続可能な未来は、**都市やコミュニティの思慮深い計画**にかかっています。急激な都市化と高密度化は、私たちの生活様式にかつてないほどの圧力をかけています。ここでは、経済、社会、環境など、私たちの生活を定義するさまざまな観点から検討していきます。

4 健康のためのデザイン

建築環境は、人間の身体的・精神的な健康に影響を与えます。人口の増加とインフラの不平等に伴い、ヘルスケアへのアクセス、病気の蔓延、予防可能な早死には、持続可能な未来のために大きな関心が寄せられています。**直接的なヘルスケアだけでなく、行政の管轄外となっている居住地のための下水道システムの開発や、障害を予防するためのより良い建築設計など、基本的なインフラを改善するために行動することで、人々の健康と幸福度は飛躍的に向上します。**さらに、すべての人のための**自由な移動と自由なアクセスを可能とし、アクティブな屋外生活のための空間を作り、室内環境の健康と快適さを確保**することで、個人の健康を促進することができます。

5 誰一人取り残されないためのデザイン

ユニバーサルデザインと男女共同参画の環境づくりの視点からのデザイン提案です。ここでは、文化的な違いを慎重に考慮し、文化的保存のための戦略を通じて、社会的弱者や疎外されたグループをどのように取り込めるか、**社会性を重視した住宅戦略やコミュニティを包摂する建築のデザインが、コミュニティ間の結束をどのように固めるか、行政の管轄外となっている居住地を責任を持って改善することで社会的平等をどのように促進できるか、緊急避難所、難民住宅、災害後の復興に向けた新しいソリューションをどのように提供できるか、**などについて議論します。

6 変化へのパートナーシップのためのデザイン

変化を実行するには、**政府、民間企業、市民社会のパートナーシップ**が必要です。ここでは、建築と建築環境がどうすればこのパートナーシップを促進することができるのか、パートナーシップづくりを進める機関・組織やパートナーシップによって生まれた結果をさらに高められるかなどについて考察します。

6つのテーマの詳細はwww.uia2023cph.orgをご覧ください。